

太宰府市地域福祉推進委員会 会長

もりぐち ただひこ
森口 忠彦さん



新型コロナ禍に苦しんできた2年間でしたが、この間にこれまで思いもよらなかった非正規労働者、アルバイト学生、働く女性、子育て家庭などへのしわ寄せが生じ生活上の格差が広がった、と言われています。

これらの人々の窮状を打破するのは、最終的には「政治」の責任であり、「福祉」の役割です。福祉とは「すべての人が安心して暮らせる社会づくり」と言えますが、法律に裏打ちされた行政上の福祉サービスだけでなく、市の政策によるコミュニティバスの運行、災害支援などを含みます。さらに、地域や職域、私たち身の回りの人同士による助け合いも重要な福祉の基盤です。「太宰府市地域福祉推進委員会」では現在令和4年度を初年度とする第四次地域福祉計画を策定中です。市内各界の専門家が集まって議論していますが、この計画の底流に流れる考え方は「地域共生社会」と「包括的支援体制」の構築です。わたし達も隣近所や地域の人との距離をなくし昔の良きコミュニティを取り戻す必要があります。委員会としては、太宰府市で生活する人々に「ここに住んでよかった」と思われる市にするため、市民の皆様信頼される福祉基盤を構築し、的確な福祉情報と福祉提供手段をお知らせし、福祉について世代を超えた議論と判断ができるようにしたいと考えています。

特集

私のだざいふ、市政ニュース、トピックス
..... 2~5

太宰府の梅トライアルアワード
..... 6~7

令和4年度の税の申告受付を開始
..... 8~10

ご存じですか？姉妹都市・友好都市
..... 11

新型コロナウイルスワクチンの接種
について 12

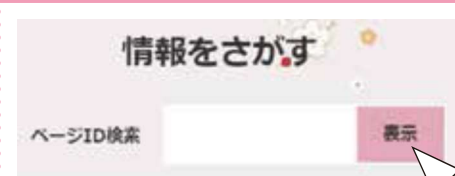
市からのお知らせ 13~19

連載 20~27

なんでも情報コーナー 28~35

太宰府の文化財 36

記事ページをホームページで検索！



広報だざいふの記事にある最大7ケタのページIDを太宰府市ホームページトップの検索画面に入力すると、同じコンテンツの記事ページをさがすことができます。

市政ニュース

史跡地の有効活用 まほろばの森「つみきセット」が完成！

12月14日(火)、太宰府市民の森（以下、市民の森）の伐採木を利用して作った、まほろばの森「つみきセット」の発表会を行いました。

（一社）まほろば自然学校は、市民の森で伐採され廃棄されるはずであった樹木から、森の貴重な恵みを皆さんに楽しみながら使ってもらう方法はないかと考え、この「つみきセット」を作りました。スタッフの皆さんが一つずつ丁寧に加工し、薬品などを一切使っていません。この取り組みは、伐採した樹木の処分費を抑えつつ、環境教育にも役立つという、史跡地有効活用の事例となりました。

岩熊志保代表理事は、「史跡地であるからこそこれだけの自然が残っています。さまざまな生き物たちが命を育んでいるので保全していく必要があります。収益が市民の森の維持管理や生物多様性の保全に活用されることを望んでいます」と話しました。

このまほろばの森「つみきセット」は、すべて太宰府市のふるさと納税の返礼品として、提供中です。



まほろばの森「つみきセット」